

決算説明資料

2023年3月期 第2四半期決算

2022/04~2023/03



TACHI-S CO.,LTD.

2022年11月25日



東証プライム 証券コード 7239

皆さまこんにちは、社長の山本でございます。

本日は大変ご多忙の中、当社の2023年3月期 第2四半期決算説明会にご参加頂き誠にありがとうございます。

初めに、新型コロナウイルス感染症や世界的な半導体不足、原油高を背景とした材料費の高騰などにより、材料供給や物流課題、生産計画の変動への対応が依然続く中、ステークホルダーの皆様には当社の諸活動にご協力を賜り心より感謝申し上げます。

本日は決算説明と中期経営計画Transformative Value Evolutionの進捗についてご説明させていただきます。

商 号 : 株式会社 タチエス
本 社 : 東京都昭島市松原町 3 - 3 - 7
設 立 : 1954年4月
資 本 金 : 90億40百万円
売 上 高 : 2,064億円 (2022年3月期 連結)
社 員 数 : 10,778名 (2022年9月30日時点 連結)
株 式 : 東京証券取引所 プライム市場
事 業 内 容 : 自動車シート製造業

当社タチエスのプロフィールは、ご覧のとおりで御座います。

第2四半期の実績

中期経営計画(TVE※)の進捗

株主還元

トピックス

※Transformative Value Evolution

2/32

本日の内容は、ご覧の4つのパートに分けてご説明いたします。
まず初めに、2023年3月期第2四半期の実績について、ご説明いたします。

第2四半期の実績（連結）



前期比

単位：億円
(億円未満切捨て)

	21/09	22/09	増減額	増減率 (%)
売上高	954	1,079	125	13.1
営業損益	-56	-43	13	—
経常損益	-46	-39	7	—
親会社株主に帰属 する四半期純損益	-47	1	48	—

<22/09 決算概況>

- ◆ 売上高は、世界的な半導体供給不足や上海ロックダウンの影響に加え、中国においてモデル切替等による販売減少があったものの、円安による為替換算影響により前年同期に対し増加しました。
- ◆ 営業損益は、得意先の減産影響、原材料価格の高騰の影響等がありましたが、北米における前年度一過性費用の減少に加え、主に中南米での原価低減ならびに合理化の効果により前年同期に対し損失が減少しました。
- ◆ 四半期純損益は、中期経営計画に基づく工場/事業所再編の一環として固定資産を売却したことにより、黒字へと転換しました。

3/32

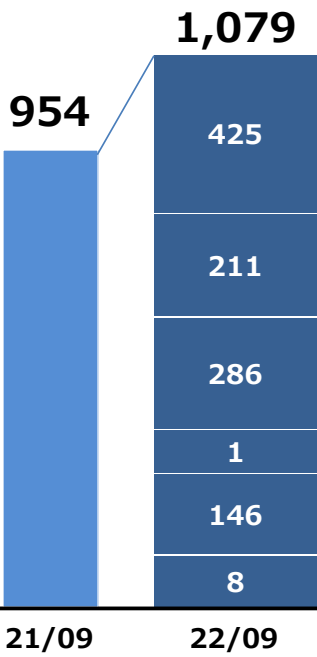
第2四半期は前年同期に対しまして、売上高が1,079億円で125億円の増収となり、営業損益が-43億円で13億円損益が改善しました。

決算概況は記載の通りですが、次のページ以降でこれらの内容についてご説明いたします。

前期比

売上高

単位：億円
（億円未満切捨て）



地域	増減額	増減率
日本	79	23.1%
北米	24	12.8%
中南米	49	20.7%
欧州	-2	-69.0%
中国	-23	-13.9%
東南アジア	-1	-16.6%

為替レート 21/09 22/09 USD=¥109.90 USD=¥131.56 RMB=¥16.55 RMB=¥18.75

4/32

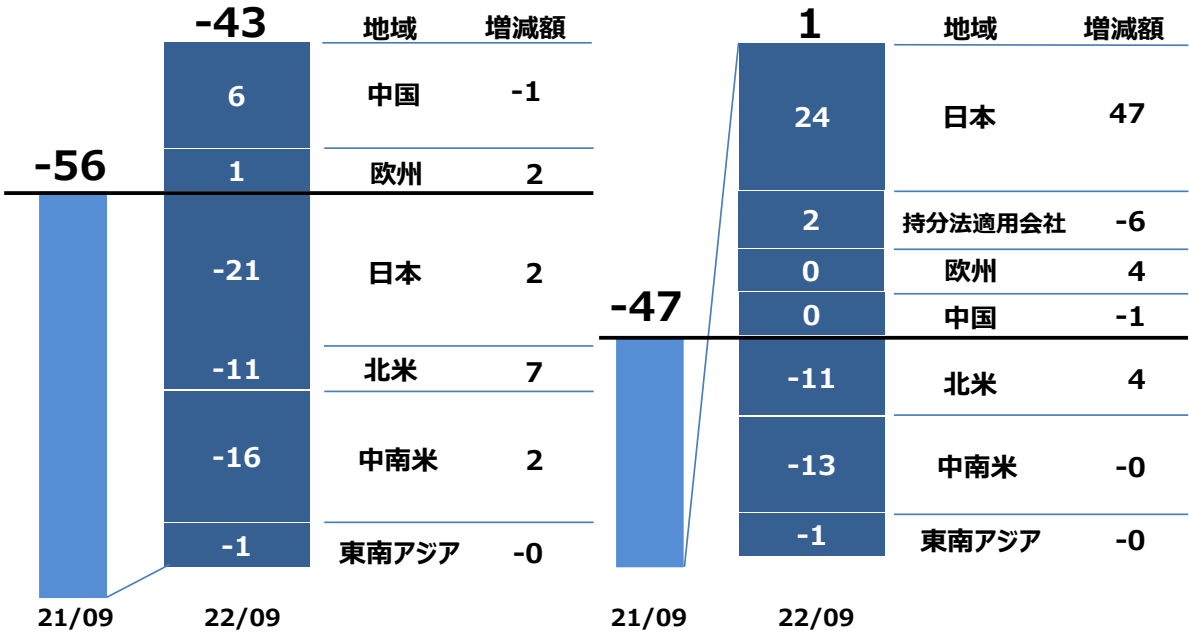
売上高は、世界的な半導体供給不足や上海ロックダウンの影響に加え、中国においてモデル切替等による販売減少があったものの、円安による為替換算影響により前年同期に対し増加しました。

単位：億円
(億円未満切捨て)

前期比

営業損益

親会社株主に帰属する
四半期純損益

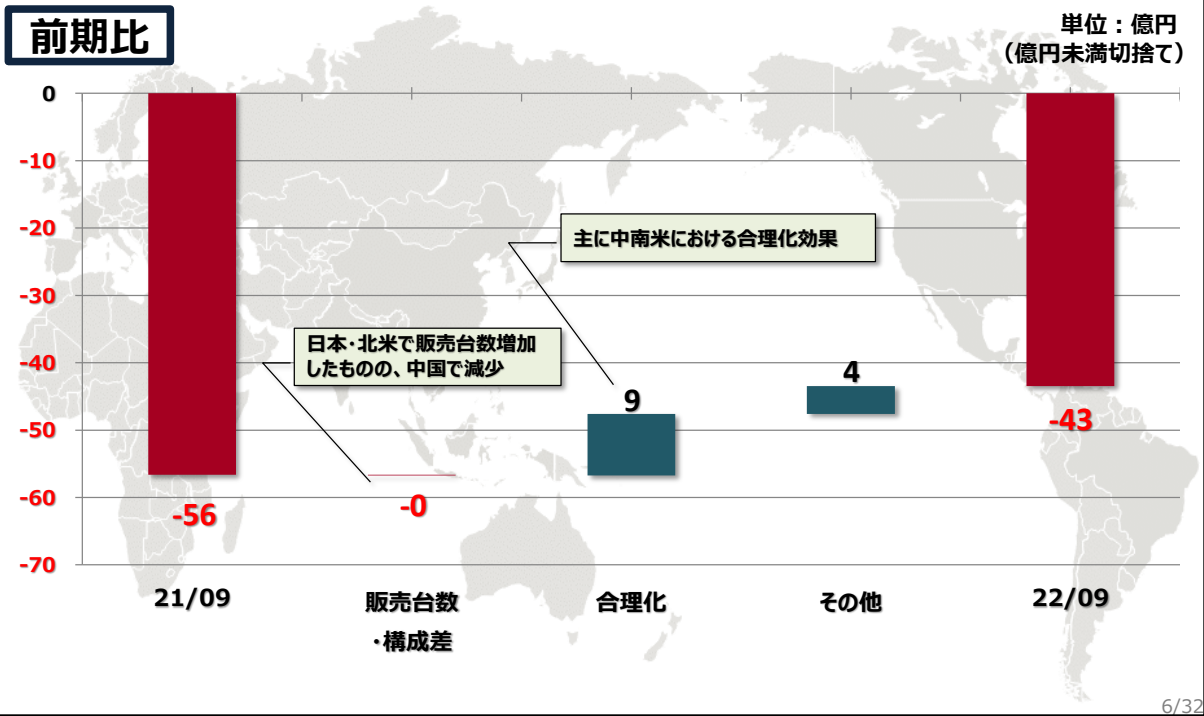


営業損益の前年同期に対する増減額は中国は減少となりましたが、それ以外の地域では増加となりました。

増減要因につきましては次のページ以降でご説明いたします。

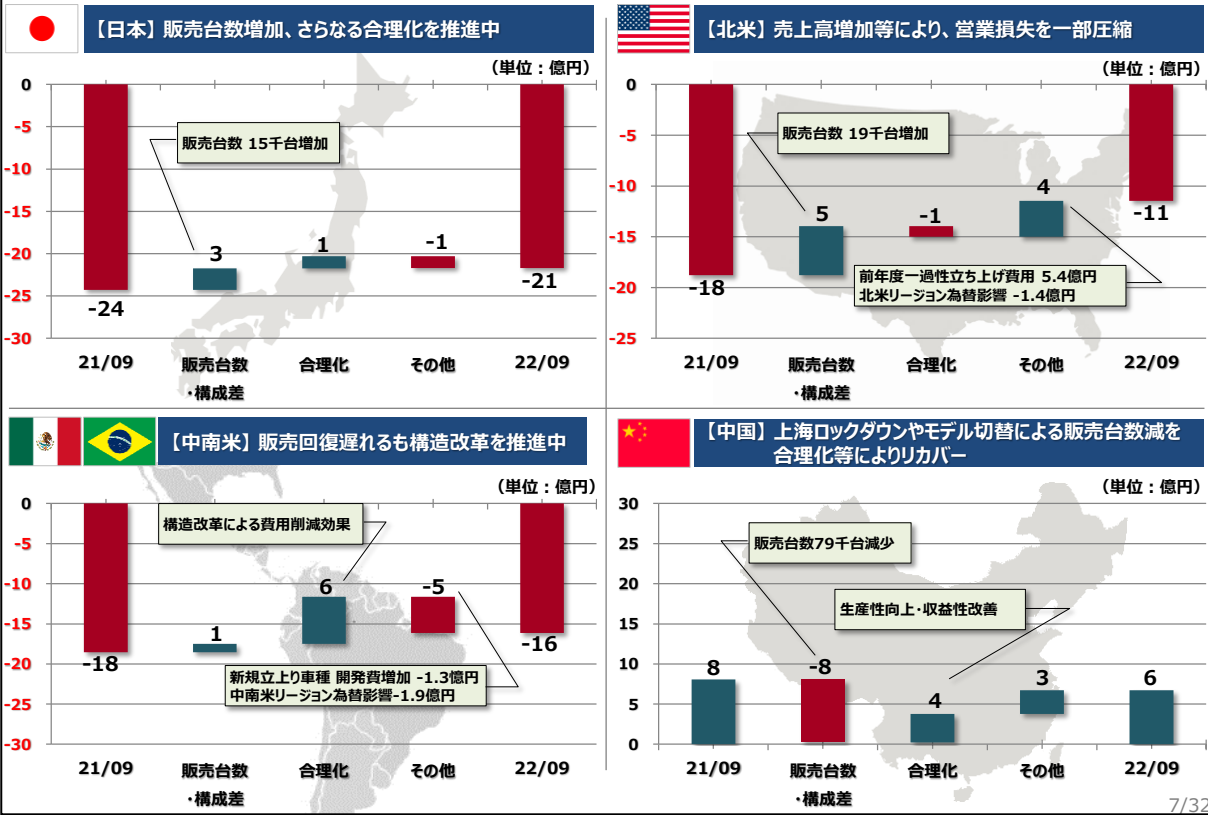
親会社株主に帰属する四半期純損益は、中期経営計画に基づく工場/事業所再編の一環として固定資産を売却したことで大幅に改善し、黒字へと転換しました。

得意先減産・原材料価格高騰の影響があったものの、合理化により営業損失は減少



営業損益は、得意先の減産や原材料価格の高騰の影響等がありましたが、合理化の効果により前年同期に対し損失が減少しました。

前期比 営業損益の山高要因分析 (連結・主要地域別) TACHI-S



地域別の営業損益では、日本においては、主に販売台数の増加により損失が減少しました。

北米においては、販売台数の増加に加え、前年度の一過性費用の減少により損失が減少しました。

中南米においては、販売台数の回復は遅れているものの、原価低減活動ならびに合理化の効果により損失が減少しました。

中国においては、上海ロックダウンの影響に加え、モデルの切替時期による販売台数の減少はありましたが、合理化等の効果により黒字を維持しております。

第2四半期の実績

中期経営計画(TVE※)の進捗

株主還元

トピックス

※Transformative Value Evolution

8/32

中期経営計画の進捗状況について説明致します。



Wave0	収益確保、存在意義が活動の中心 21年度-22年度 1) 収益構造の改善 2) 存在意義の定着化
Wave1	飛躍の準備 22年度-24年度 1) 利益が確保できる企業体制づくりの構築 2) 空間プロデューサーとしての準備、Non-Automotiveビジネスの開始
Wave2	飛躍&両輪のビジネス 24年度-30年度 1) 大変革時代の中で存在意義を体現し、大きく飛躍している 2) シートから広がり、空間プロデューサーとNon-Automotiveビジネスの両輪

9/32

まず、当社の2030年度に向けたロードマップです。

2030年度には、シートを中心とした空間プロデューサーとなり、
またシート部品以外のNon-Automotiveビジネスへの拡充を行い、
この2つが当社のビジネスの両輪となっている状態を目指しております。

21年度からスタートしている中期経営計画(TVE)では
21、22年度はWave 0として会社の収益構造の改善、存在意義の定着化、
22年度から24年度をWave 1 として、将来の飛躍に向けた準備を行い、
再生・強化フェーズと位置付け活動しております。

- ・3つの“シンカ”で事業ポートフォリオを変え、既存SEATビジネスを中心に広げていく
- ・財務目標は '24年、営業利益90~100億円、ROE8%必達、10%目標



10/32

TVEの目指す姿についてご説明致します。

事業戦略においては、3つの“シンカ”で事業ポートフォリオを変えていきます。

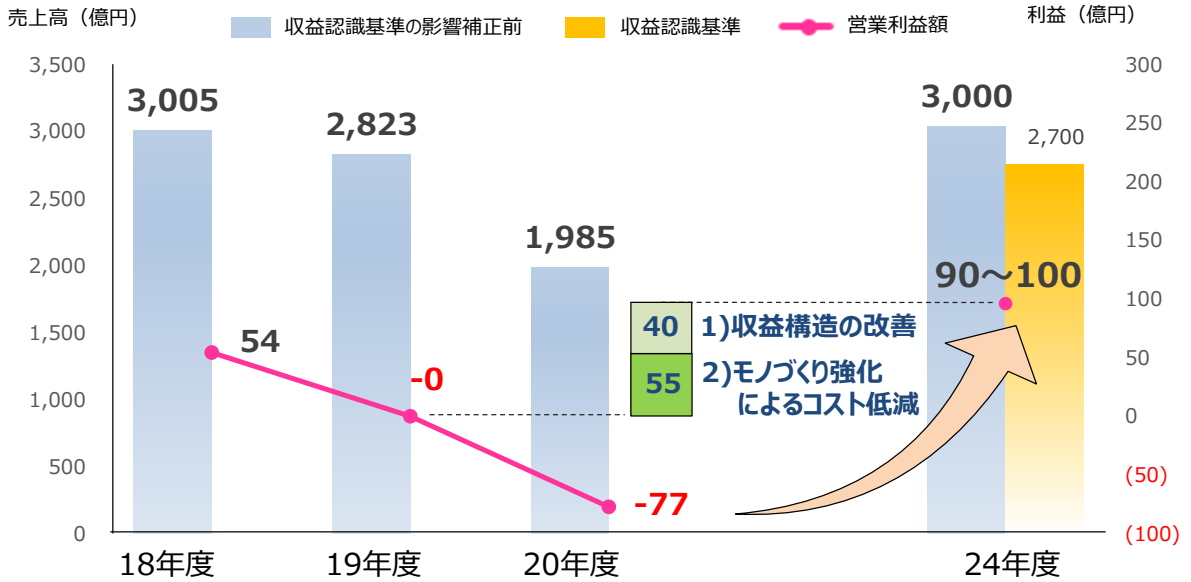
深いシンカでは既存SEATビジネスをよりリーン化、効率化すると共に部品ビジネスを拡大していきます。

進むシンカではシートを中心に車室空間のプロデュースにまで活動を広げ、新しいシンカではシートビジネスで培った強みを活かしてnon-automotive領域へ活動を広げていきます。

24年度の財務目標として営業利益90億円~100億円、ROE8%必達、10%を目標として設定しております。

これらの達成に向け、「組織営業力の強化」、「モノづくり競争力の強化」、「経営基盤の強化」、「土台の構築」を重点活動方策として取組んでおります。

収益構造の改善とモノづくり強化によるコスト低減で、コロナ影響がなかった19年度に対し 90～100億円の営業利益の改善を行い、24年度の収益改善を図る

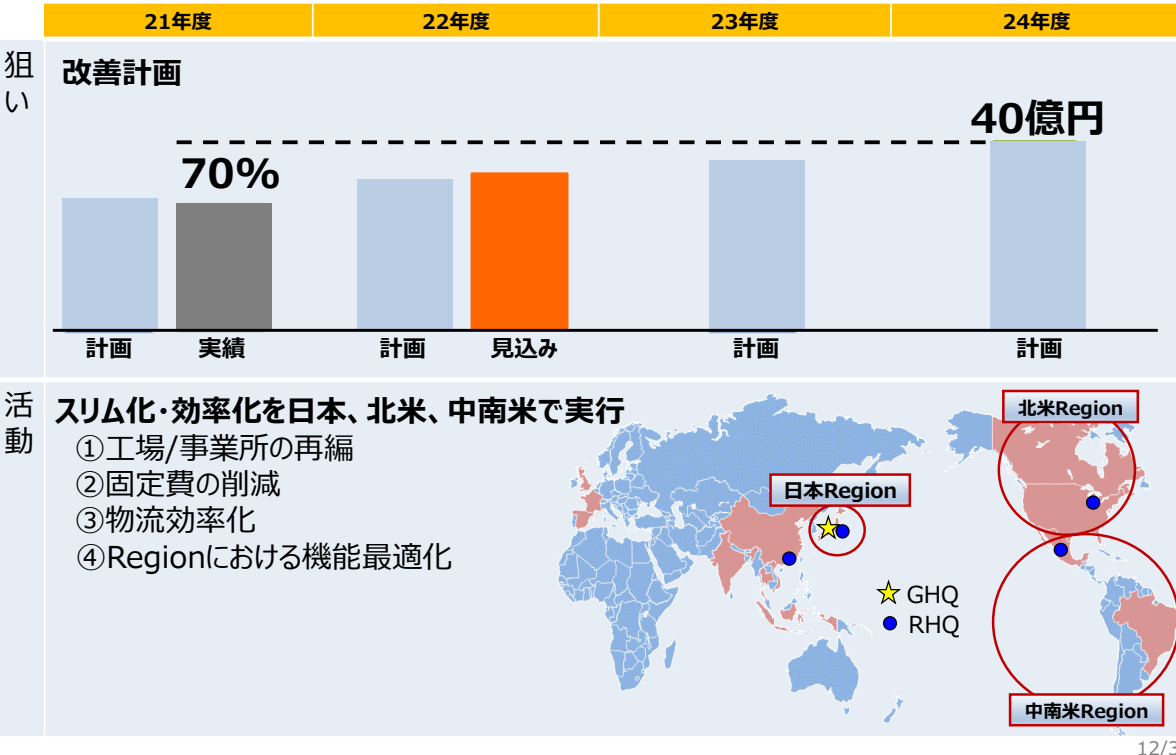


11/32

24年度に90億円～100億円の営業利益を出すために
「収益構造の改善」で40億円、「モノづくり強化によるコスト低減」で55億円の
改善を進めております。

収益構造改善状況

FY21で70%達成。FY22は計画を上回るペースで収益構造改善をグローバルで推進

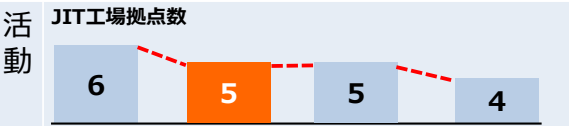
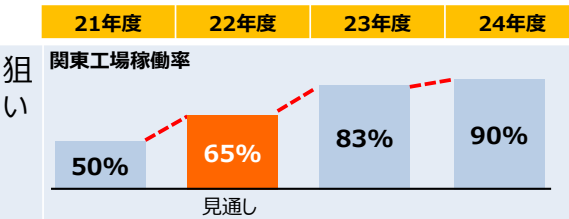


収益構造の改善40億円の進捗については上段のグラフに示す通り21年度で70%まで達成しており、22年度については一部改善の前倒しを行い、計画を上回るペースで順調に推進しております。

具体的な活動について次ページ以降でご説明致します。

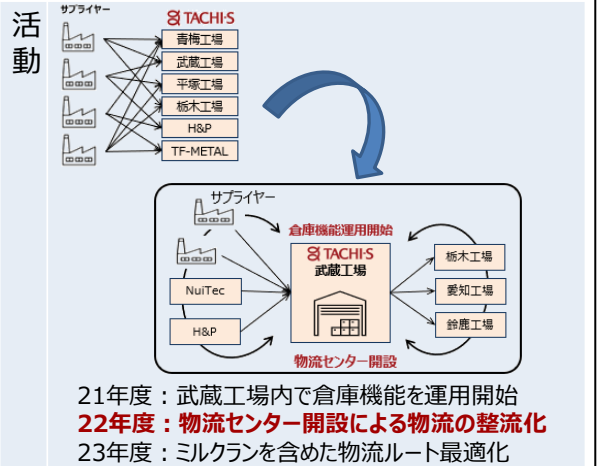
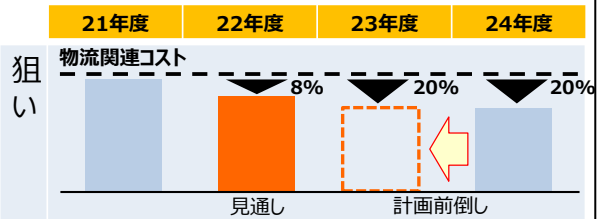
工場再編は計画通り推進。物流効率化は1年前倒しで達成見込み

日本1)-① 工場/事業所再編



- ・21年度に平塚工場売却を実行
- ・21年度より段階的に工程移管を実行し22年12月 平塚工場を閉鎖
- ・計画通り生産集約による稼働率向上

日本1)-③ 物流効率化



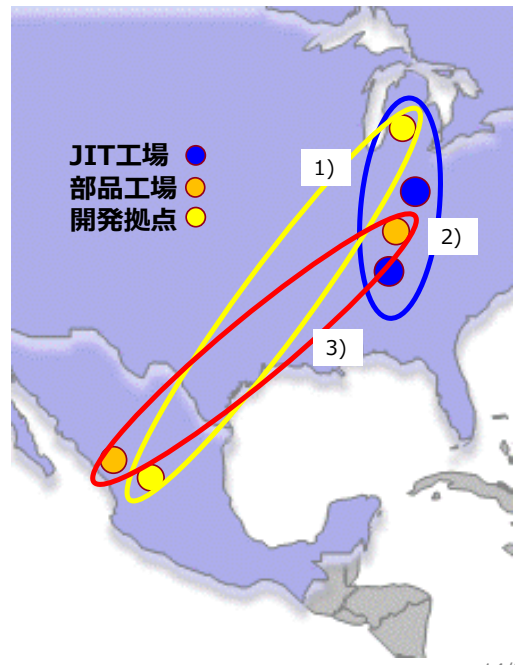
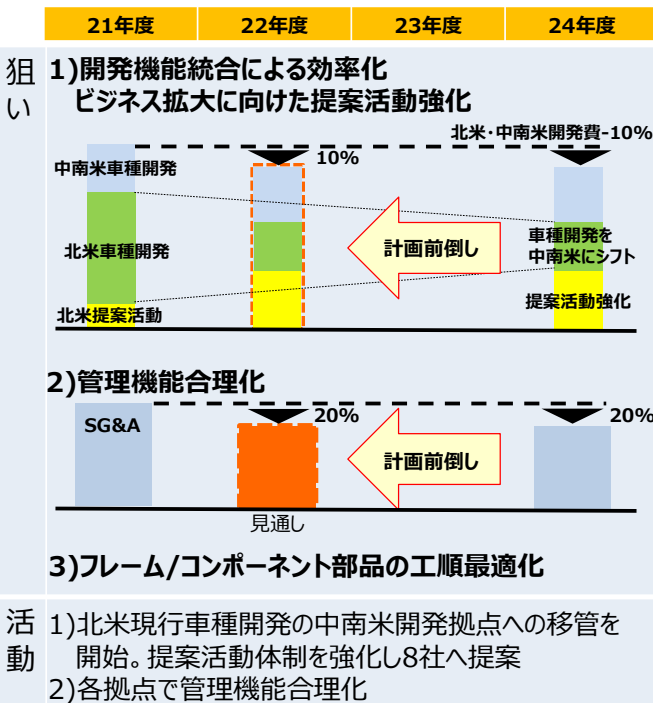
日本の収益構造の改善の進捗について説明致します。

工場再編においては、関東地区の工場稼働率を24年度までに90%に上げていく計画をしており、22年度は12月に平塚工場の生産移管が完了し、計画通り65%まで稼働率を上げる予定です。

物流効率化においては、物流関連コストを24年度までに20%低減する計画に対して22年度は物流センター開設による物流の整流化により8%低減し、23年度はミルクランを含めた物流ルートの最適化を実施し、20%低減を1年前倒しで達成する予定です。

開発機能統合、提案活動強化、管理機能合理化を前倒して推進

北米・中南米1)-④ 機能最適化



14/32

北米・中南米の収益構造の改善の進捗について説明致します。

24年度までに北米の車種開発の一部を中南米に集約することで効率化を図り、北米は効率化から産み出すリソースを新規ビジネス提案活動により注力することを狙いとしておりますが22年度に前倒しで移管を実行し、北米・中南米の開発費を10%低減する見通しです。

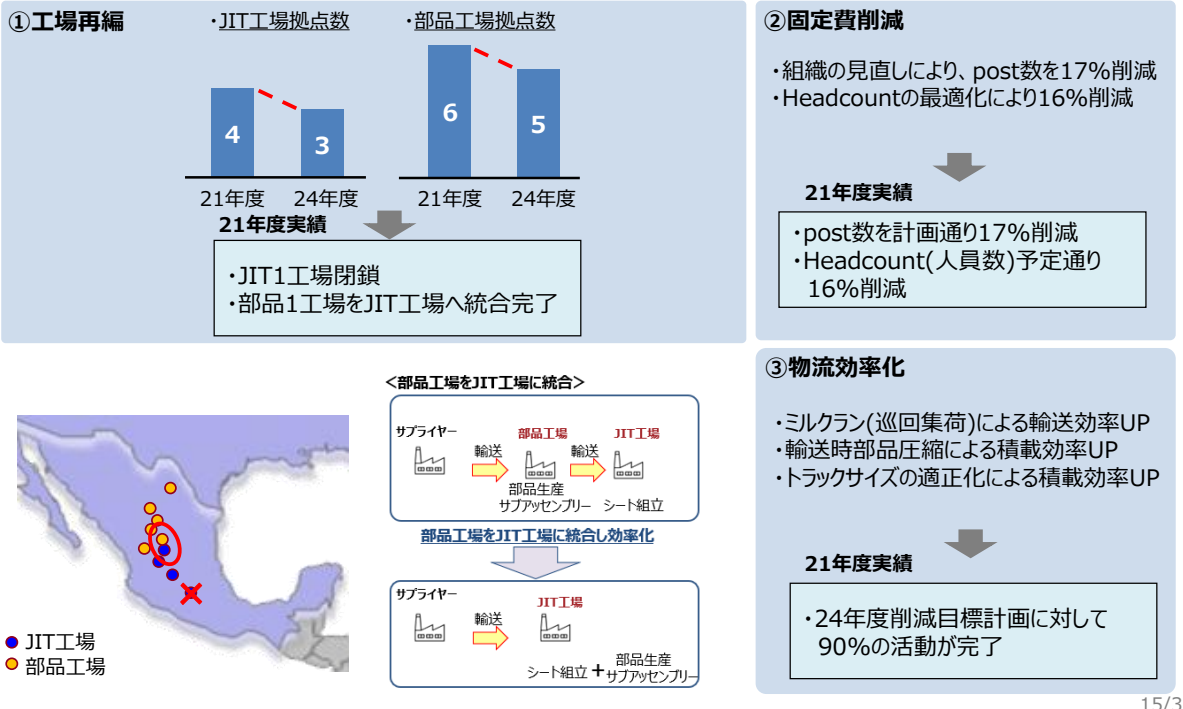
これにより北米では新規8社に提案活動を実施しており、新規ビジネスの獲得に繋がっていきます。

管理機能についても北米Region内で各機能を最適化・効率化を行い、24年度までにSG&Aを21年度比20%削減を行う計画を前倒しで22年度内に実行致します。

フレーム/コンポーネント部品の工順最適化ではFRM生産のJIT近接化、コンポーネント部品生産の集約を柱に最適化をプロジェクトの日程に合わせて検討しております。

工場再編、固定費削減、物流費低減を計画通り実行中

中南米1)-①②③ 工場再編、固定費削減、物流効率化



15/32

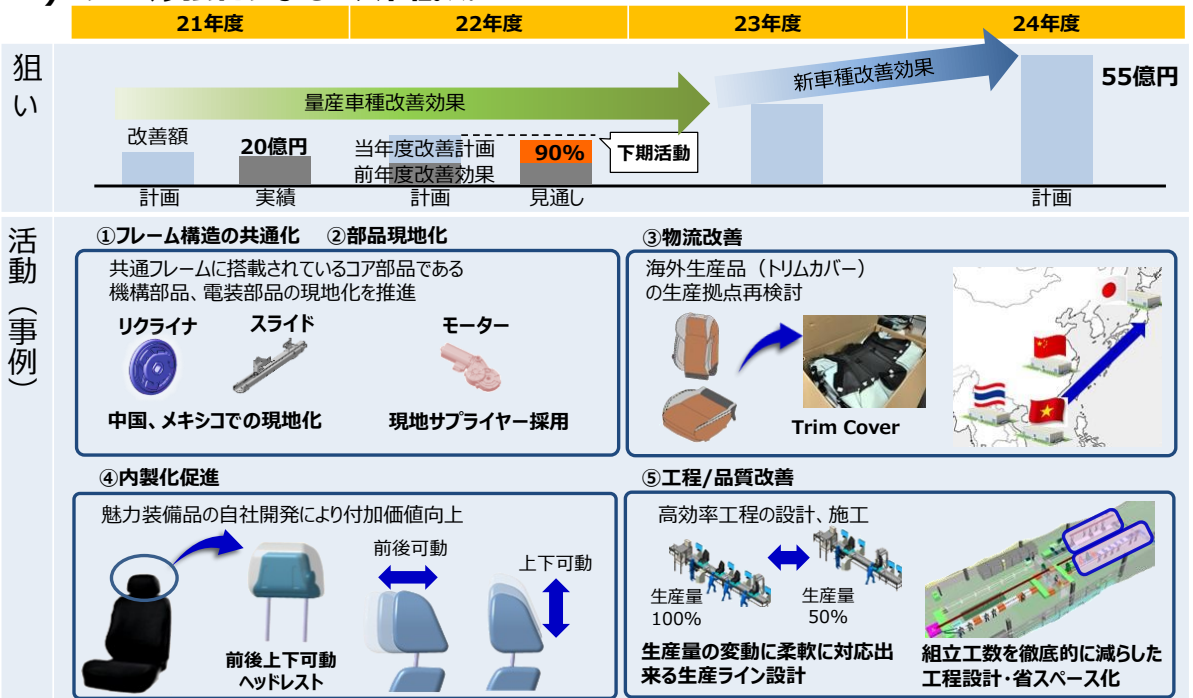
中南米では21年度に計画した工場再編、固定費削減、物流効率化をそれぞれ計画通り実行しております。

工場再編ではJIT工場を1つ閉鎖し、また部品工場をJIT工場へ統合し、生産・物流の大幅な効率化を実行しました。

以上が収益構造の改善40億円の進捗状況であり、各リージョン共に順調に推進しております。

共通化・現地化・合理化・内製化・工程/品質改善による原価低減活動を計画通り実行中

2)モノづくり強化によるコスト低減



16/32

続いて「モノづくり強化によるコスト低減」55億円の改善の進捗について説明致します。

21年度、22年度は現在量産している車種の改善活動がメインで21年度は20億円の改善を実施しました。22年度の上期時点では年間目標の90%まで見通しております。下期は残り10%を積み上げて年間目標を達成致します。

23年度以降は量産車種に比べて改善自由度が高い新規立ち上げ車種へ織り込んだ改善活動の効果により24年度計画を達成致します。

いくつか取組み事例を説明致します。

フレーム構造の共通化、部品現地化では、コア部品の現地化を促進し、共通フレームの競争力を更に上げ、グローバルでの採用拡大に取り組んでいます。

リクライナー、スライドは中国、メキシコでの現地生産化を実施し、モーターは中国の現地サプライヤーを採用します。

物流ではトリムカバーの海外生産の一部を日本国内へ移管し、高騰する物流費や為替の影響を考慮した調達最適化を図る活動を推進しています。

内製化の促進では自社開発装備品をより増やすことで、コスト低減を図り、より良い製品のご提案が出来るように進めております。

工程、品質改善では、生産量の変動に柔軟に対応出来る生産ライン設計や、組立工数を徹底的に減らした工程設計をすることでムダを省いたモノづくりを目指しています。

これらは一例ですが、この様な5つの切り口を中心にモノづくり力の強化を進めております。

コモディティ毎の技術戦略実行により深化

狙い コモディティ毎の技術戦略実行によるリーンなモノづくりを目指す
(フレーム、機構、トリムカバー、ウレタンPAD、シート組立て)

予測技術向上

IoT

効率的な生産工程

自動化

軽量化

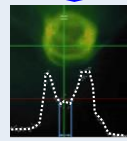
原価低減

内製化

活動
(事例)

レーザー溶接自動検査

・効率的な生産工程:インライン化による効率化



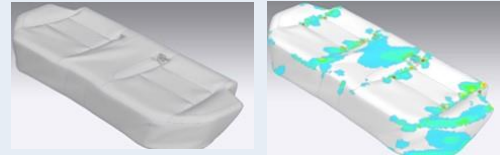
溶接中の
光の幅を測定

インライン検査

全数品質保証・工程数削減・設備投資削減

トリムカバー技術開発

・予測技術:しわシミュレーションによる開発効率化



しわシミュレーションにより、トリムカバー形状決定の早期化と開発効率化

・IoT:IoTによる効率的な課題解決



縫製工程のIoT化によるリアルタイムでの作業のデータ化を行い、効率改善と迅速な課題解決

17/32

将来の飛躍に向けた3つのシンカ、またDX、ESGの取組みについて説明致します。

「深いシンカ」ではフレーム、機構、トリムカバー等のコモディティ毎の技術戦略を実行しています。

「予測技術向上」、「IoT」、「自動化」、「内製化」等によりリーンなモノづくりを目指しております。

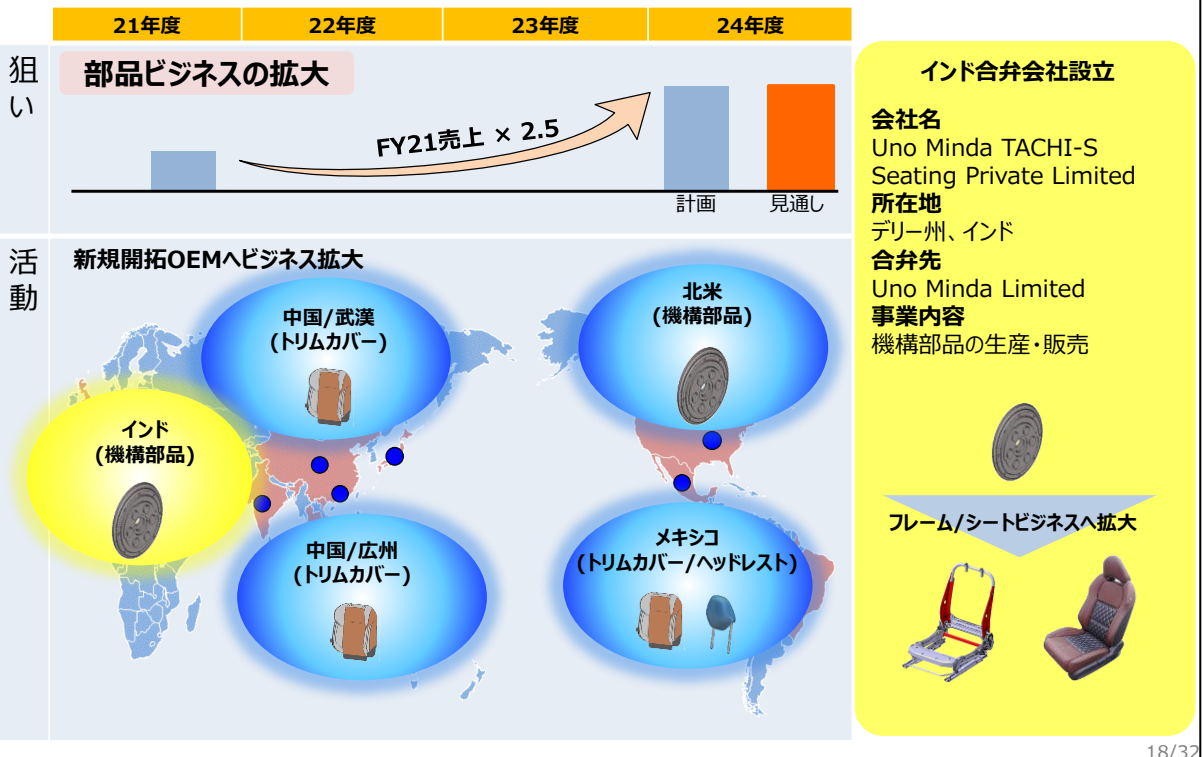
いくつか取組み事例を説明致します。

レーザー溶接工程では溶接工程とは別工程で検査を実施していましたが溶接工程内にモニターを設置して溶接中の光の幅を自動測定する事で検査をインライン化しました。

トリムカバー技術ではトリムカバーのしわをシミュレーションで予測する事で形状決定の早期化と開発の効率化を図っております。

また、縫製工程ではIoTにより、リアルタイムで作業のデータ化を行い効率改善と迅速な課題解決を可能にしました。

グローバルで部品ビジネス拡大。シートビジネス拡大に繋げていく



18/32

部品ビジネス拡大の進捗を説明致します。

当社ではシートビジネスだけでなくトリムカバー、機構部品、フレーム等のシート部品ビジネスの拡大を図っております。

部品ビジネスでは24年度までに21年度比2.5倍の売上を計画しており、グローバルでビジネスを拡大させ目標を達成する見込みです。

トリムカバーにおいては中国、メキシコで、機構部品においては北米、インドで新規開拓OEMのビジネスが拡大しております。

インドでは先日公表した通り、Uno Minda Limited社との合併会社を設立致しました。

グローバルで部品ビジネスを拡大させ、今後フレーム、シートビジネス拡大に繋げていきます。

新たな移動空間価値創出を具現化、その達成に向けたシステム制御技術を開発中

21年度

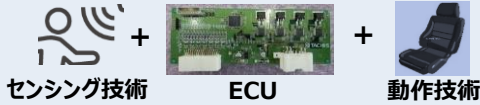
22年度

23年度

24年度

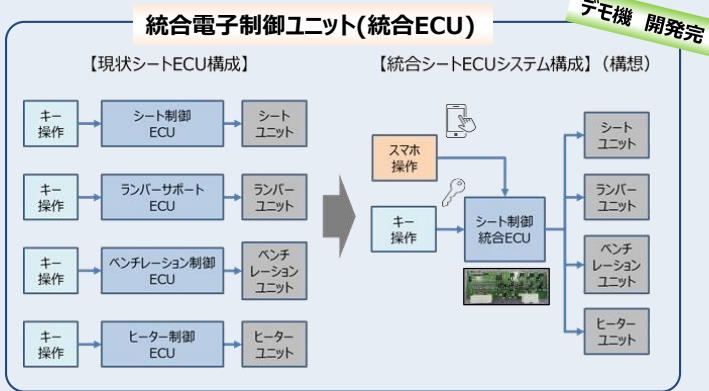
25年度～

- 狙い
- ・異業種とも協議して新たな移動空間価値の創出
 - ・移動空間価値を具現化するシステム制御技術



活動

具現化技術の保有



空間プロデューサー

シートを中心とした空間価値



移動マイルーム コンセプト



オールインワンシート コンセプト

- 新たなモビリティ価値
- 商品・システムの提案
- 具現化技術の保有

19/32

進むシンカについては、空間プロデューサーとして異業種とも協議して新たな移動空間価値の創出に繋げていきます。

新たな移動空間価値を具現化する為に必要な基盤技術としてシステム制御技術の開発に取り組んでおり、他社と協働して統合ECUの試作機を完成させました。

本ECUは複数の機能を1つのECUによって制御するもので、重量の低減や省スペース化、また、コスト低減面での効果を見込んでいます。

この様な基盤技術開発やシーズ開発を進め空間プロデューサーとしてシートを中心とした空間価値を創出していきます。

身体的・精神的・社会的に幸福な生き方を応援する企業を目指す

21年度

22年度

23年度

24年度

25年度～

狙い シートで培った技術とオープンイノベーションで自動車以外の新領域事業へ進出



活動

“座る”を追求し人と地球を支える

“ウェルビーイング事業への挑戦”

■安心・安全：

アクティブシニアサポート、パーソナルモビリティ提案
…免許返納者への新たな移動価値



■癒し・心地よさ：

瞑想体験・リラクゼーション・マインドフルネス価値提案
…“座る”心地よさと癒し空間の追求



■快適、自分らしさ：

ニューノーマル世界の快適空間創出
…新しい働き方の提案、メタバース領域での提案



■地域創生・女性活躍応援：

女性が活躍する社会を目指し、働く女性の応援提案
…エコで省エネな個人に向けた暖房提案



20/32

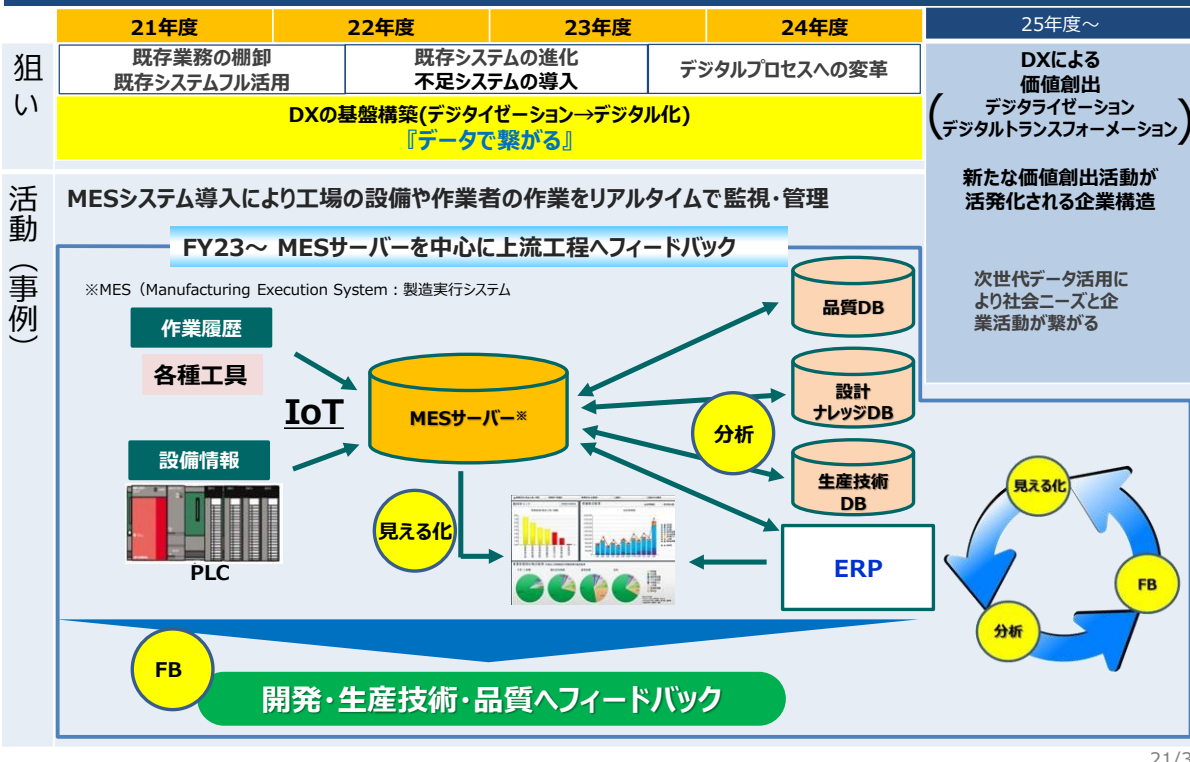
新しいシンカについて説明致します。

当社では自動車以外の新領域事業への進出に向けシートで培った技術をベースにオープンイノベーションによりアイデアを発散させ、そこからPoCやビジネス成立性検証を行いながらアイデアを絞り込み、小さくビジネスをスタートさせ、スケール化していきます。

その中で当社のパーパス「“座る”を追求し人と地球を支える」の実現に向けてウェルビーイング事業を検討しています。

身体的・精神的・社会的に幸福な生き方を応援する企業を目指して取組んで参りたいと思います。

DXに向けて業務棚卸から既存システム活用、不足システムの導入によりデータで繋がる状態にする



21/32

当社ではDXの基盤構築として、24年度までにデジタイゼーション、デジタル化、すなわち「データで繋がる」状態を作り出します。

その為に業務の棚卸から既存システム活用、不足システムの導入を実施しています。

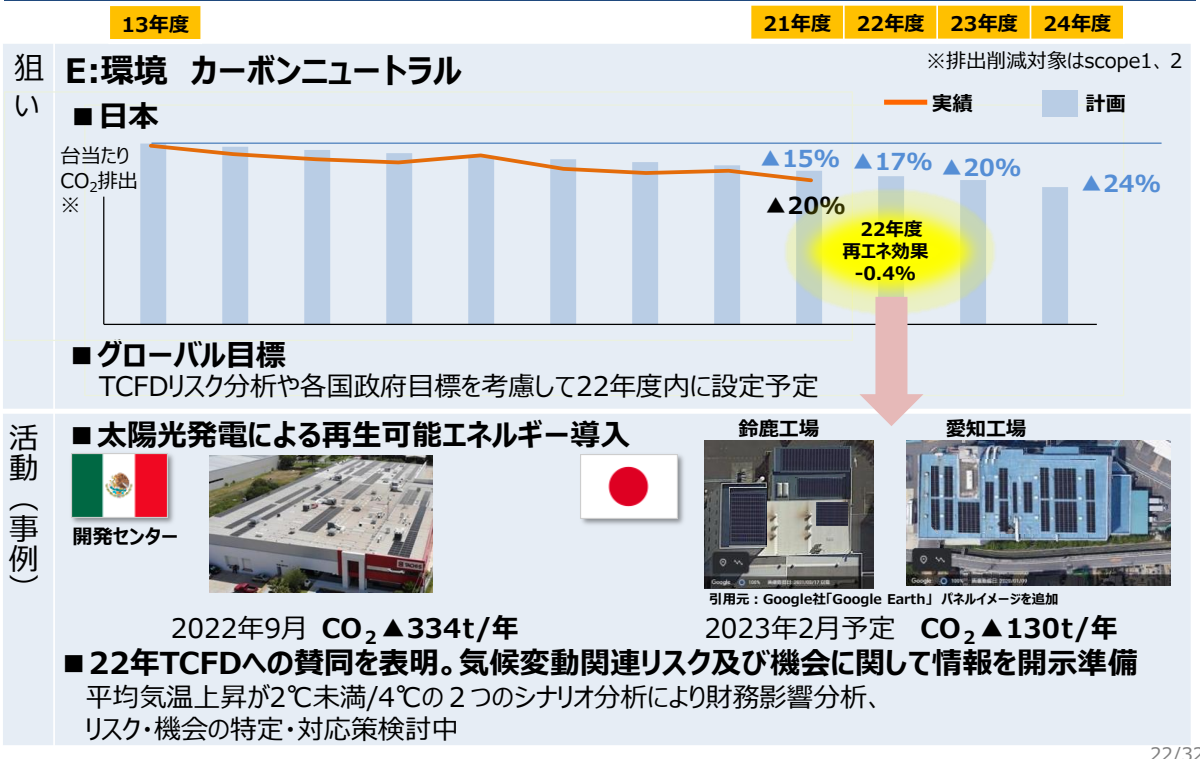
取組みの一例を紹介致します。

当社では工場の設備や作業者の作業をリアルタイムで監視・管理を行うMESシステムの導入を進めております。

MESシステムにより見える化された工場データを上流工程である品質データ、設計ナレッジデータ、生産技術データ、生産管理データと繋げて課題分析を実施し、各機能ヘフィードバックする事でモノづくり競争力強化を図ります。

この様に個別で存在するシステムを繋げ、25年度以降のDXの基盤を整えていきます。

国内はCO₂排出量削減目標達成見込み。グローバル目標を22年度に策定する。TCFDへの賛同表明



22/32

ESGの取り組みについて説明致します。

E・環境についてはカーボンニュートラルへの取り組みを行っています。

日本は24年度までに1台当たりのCO₂排出量を13年度比24%削減を計画しております。

21年度は省エネ活動を中心に20%削減致しました。

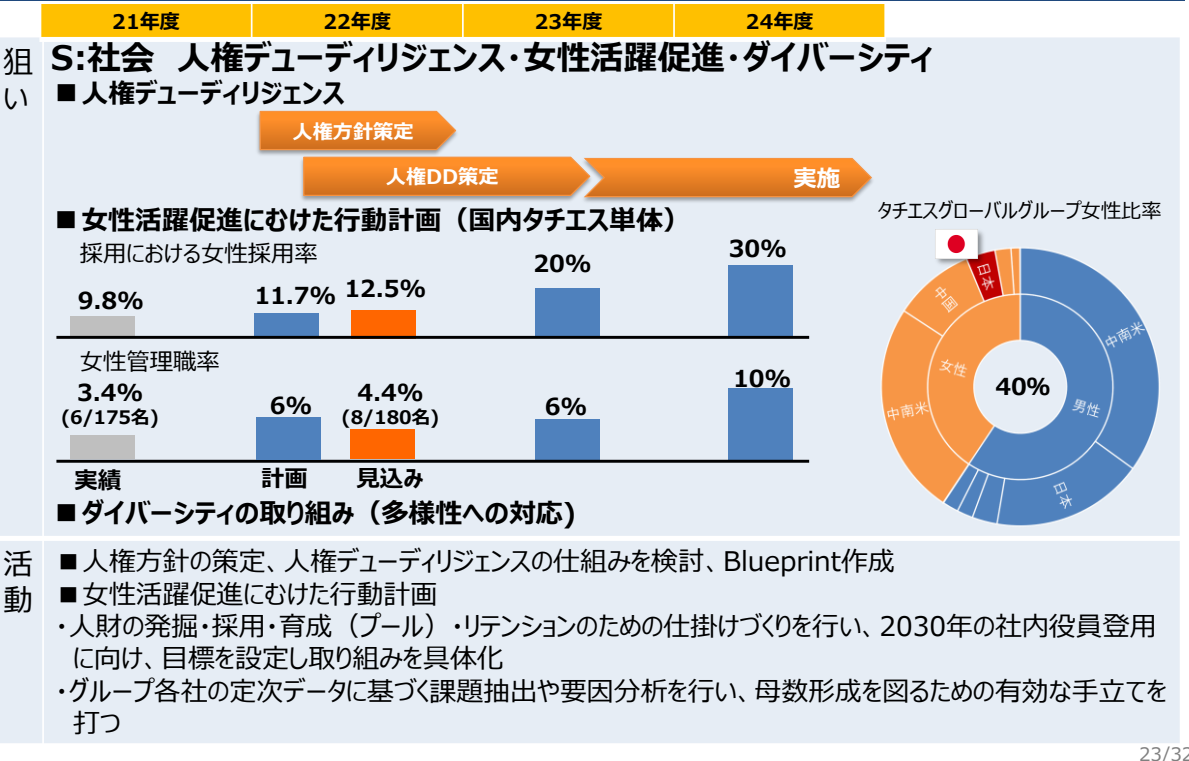
23年2月に日本の愛知工場、鈴鹿工場に太陽光発電システム導入を予定しており、22年度は更に0.4%の削減を見込んでおります。

9月にはメキシコの開発センターに太陽光発電システムを予定通り導入しました。グローバルでのCO₂排出目標に関してはTCFDリスク分析や各国政府目標を考慮し22年度内に設定する予定です。

また、今年5月にはTCFDへの賛同を表明しており、気候変動関連リスク及び機会に関して情報開示を行う準備をしております。

気候変動が事業にもたらすリスクと機会を把握するため、平均気温上昇が2℃未満のケース4℃のケースの2つのシナリオ分析を行い財務影響分析、リスク・機会の特定・対応策を検討しております。

人権・多様性を尊重、活かす仕組みづくり



ESGの「S」、社会性の中の人財領域の取り組みについて説明致します。

タチエスは国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」など国際的な人権原則に賛同し、人権方針の策定と人権デューデリジェンスの仕組み作りを検討しています。

また多様化した顧客ニーズを満たすイノベーションのためにダイバーシティの取り組みを進めています。

グローバルでの従業員女性比率は40%ですが、とりわけ国内での女性比率が低くなっております。国内タチエス単体において将来の女性社内役員登用を新たな目標とし、2024年度の「採用における女性比率30%以上」、「女性管理職の割合10%以上」に向け人財の発掘・採用・育成・リテンションのための活動を進めていきます。

原則・ 補充原則	項目	対応
1-4	政策保有株式	- 独立系自動車部品メーカーとして今後も持続的に成長していくためには、様々なステークホルダーとの協力関係が不可欠 政策保有株式については、事業のために必要と考えるものは合理的な範囲で保有を継続する一方で、事業の新化や進化に合わせて縮減を含めて保有内容を変更する - 挑戦目標ROE10%（FY24）を鑑み資産効率性を絶えず意識し、連結純資産の10%未満になるよう管理する
4-10①	指名・報酬等に関する独立社外取締役の関与・助言	- 人事報酬委員会メンバー5名のうち3名を独立社外取締役※に変更（'22.06） ※当社の独立性判断基準による - 人事報酬委員会委員長を社外取締役に変更予定（'23.06）
4-11	取締役会・監査役会の実効性確保のための前提条件	- 第三者が関与した取締役会の実効性評価を実施し、取締役会で結果と課題を報告（'22.03）。順次改善を実施中 - 女性役員は現在不在だが、女性管理職の拡大他、女性が一層活躍できる職場環境の実現に向け、取り組みを強化・推進中

24/32

ESGの「G」、コーポレートガバナンス上の課題とその対応について説明いたします。

当社のコーポレートガバナンス報告書では、5つの項目についてExplainしております。

原則1の4、政策保有株式につきましては、

当社が独立系の自動車部品メーカーとして今後も持続的に成長していくためには、様々なステークホルダーとの協力関係が不可欠であると考えており、保有している政策保有株式は、合理的な範囲で保有を継続する一方、事業の新しいシンカや進むシンカに合わせ、縮減を含めて保有内容を変更する方針です。

なお、挑戦目標のROE10%を鑑み、資産効率性を絶えず意識し、連結純資産の10%未満になるよう管理してまいります。

補充原則4の10の1につきましては、人事報酬委員会メンバーの過半数を社外取締役とし、来年度には委員長を社外取締役に変更する予定です。

原則4の11につきましては、取締役会の実効性評価を第三者が関与する形で実施し、本年3月の取締役会で結果と課題を報告しました。

抽出された課題に対して改善策を議論し、順次改善に着手しております。

原則・ 補充原則	項目	対応
2-3①	サステナビリティを巡る課題への積極的・能動的な対応	➤ サステナビリティへの取り組みの基本方針の策定 ● 「ESGの考え方」を策定しホームページで開示（'22.10） ➤ サステナビリティを巡る課題への対応 ● 四半期ごとにESG推進会議を開催 ● 「ESGレポート2022」をホームページで開示（'22.10） ● リスクマネジメント委員会においてリスクマップの見直しを実施（'22.06） リスクを評価し、対策を推進中
4-2②	取締役会によるサステナビリティへの取り組み基本方針の策定	タチエスのESGの考え方について タチエスグループは、「人と社会と共生し、快適で豊かな生活空間を創造し続けることで人々を笑顔にする」というビジョンを定めています。当社は、ビジョンの実現を通じてステークホルダーの要請・期待に応え、持続可能な社会の実現に貢献することを目的にESGに取り組んでいます。そのために、当社は「モノづくりを通じた社会貢献」と「事業プロセスにおける社会的責任」をESGの根幹と位置づけ、ESGと事業活動を一体化した経営を目指します。 「モノづくりを通じた社会貢献」では、人々を笑顔にする革新的な技術を礎に自動車用シートを中心とした安心・安全・快適な車室空間を創造し続け、当社の商品やサービスによる提供価値を通じ社会へ貢献していきます。 また、「事業プロセスにおける社会的責任」では、法令・社会ルールの遵守はもとより、ダイバーシティの推進や地球温暖化防止など社会が抱える課題に取り組み、よき企業市民として社会的責任を果たしていきます。 当社はESGを常に経営戦略の中心に据え、企業の持続的な成長を図りながら、これらの活動を通じて当社ビジョンの実現に取り組んでいます。 【当社ホームページより】 

このページはサステナビリティに関する項目です。

サステナビリティへの取り組みの基本方針として、ESGの考え方を策定しました。
サステナビリティを巡る課題への対応としましては、ESGレポートを策定し、
ホームページで開示しました。

また、リスクマップの見直しを実施しリスク評価、対策を推進しております。

ESG推進会議による四半期毎の進捗フォロー、取締役会による監督

■ ESG推進体制

ESG推進会議：活動方針の承認、四半期ごとに進捗フォロー

取締役会：ESG推進会議の活動内容を監督

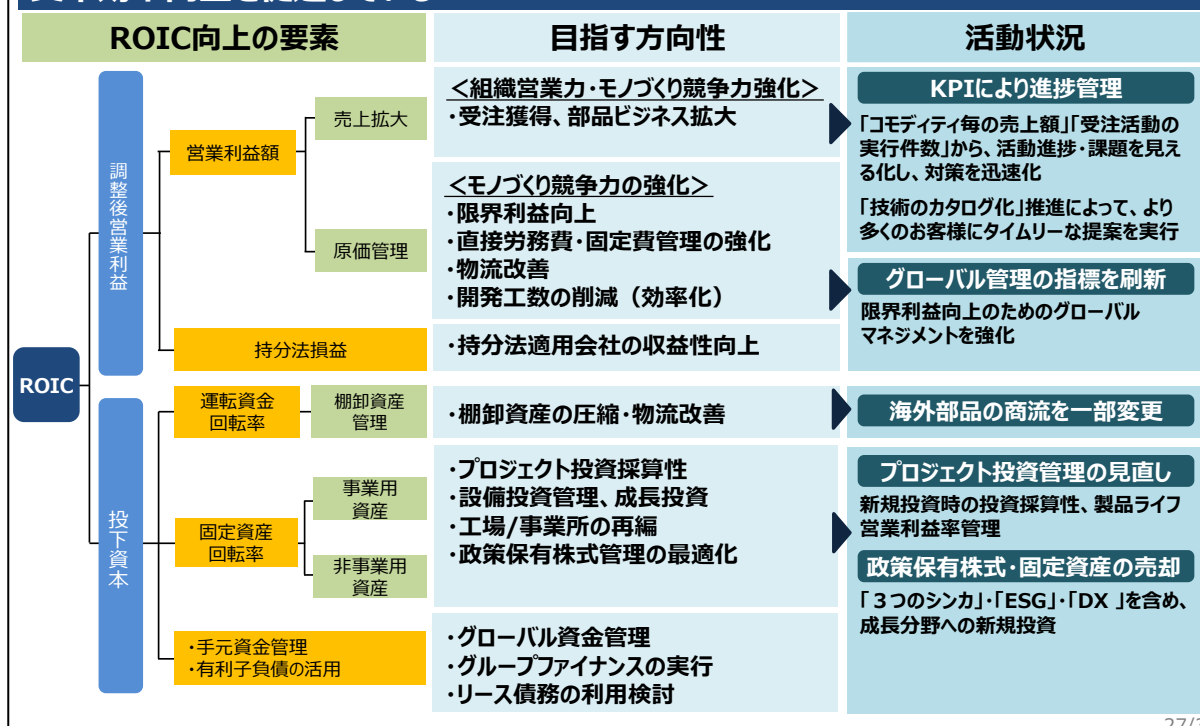


26/32

ESGの推進体制については社長が議長を務めるESG推進会議において、活動方針の承認や四半期ごとの進捗フォローを実施しています。

ESG推進会議の活動内容は、取締役会へ報告され、取締役会が監督して参ります。

ROIC向上の要素と各活動を結び付け、資本コストを意識した経営の浸透を図り、資本効率向上を促進している



27/32

財務資本戦略においてROICを構成する各要素と、TVEの事業戦略の各活動を結びつけることによって、資本コストを意識した経営の浸透を図りつつ、資本効率向上を促進しています。

例えば、売上拡大においては、コモディティ毎の売上額をKPIとして進捗管理を行っております。

原価管理では、グローバル管理の指標を刷新して限界利益向上の為のマネジメントを強化しております。

この様に各活動とROIC向上の要素を結び付け、活動していくことにより、資本効率性を意識し、ROE目標を達成します。

第2四半期の実績

中期経営計画(TVE※)の進捗

株主還元

トピックス

※Transformative Value Evolution

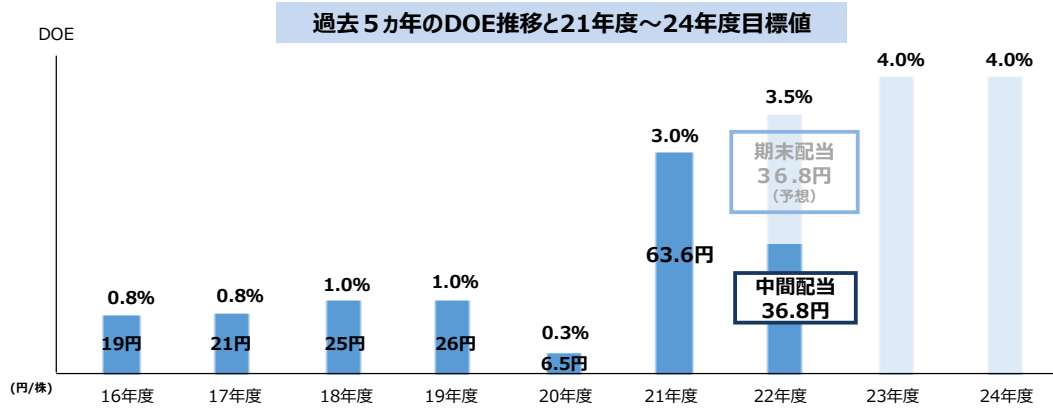
28/32

株主還元について、ご説明いたします。

配当：21年度～24年度 DOE* 3～4%

*Dividend on Equity Ratio（連結自己資本配当率）

- 主たる配当の財務指標としてDOEを採用
- キャッシュフロー、中長期的に健全な財務基盤の維持などを総合的に勘案し、積極的な株主還元を実施



29/32

当社は、主たる配当の財務指標としてDOEを採用し、2021年度から2024年度でDOEを3～4%に引き上げる方針です。

2022年度の中間配当金は、1株当たり36.8円といたしました。通期につきましては、前年度比10円増配の、年間73.6円とさせていただく予定です。

第2四半期の実績

中期経営計画(TVE※)の進捗

株主還元

トピックス

※Transformative Value Evolution

30/32

最後にトピックスです。

経営・事業		本店移転日が2022年12月20日に決定	ニュースリリースへ
		タチエス昭島ビルの譲渡	ニュースリリースへ
		インドにおける新たな合併事業開始	ニュースリリースへ
		中国における子会社設立及び子会社の異動手続きの完了	ニュースリリースへ
		雲夢工場の設立・稼働開始 【泰極愛思（武漢）汽車内飾有限公司】	Appendixへ
受賞		2021 Nissan Supplier Quality Awardを受賞 【襄陽東風李爾泰極愛思汽車座椅有限公司】	ニュースリリースへ
		2021 Dongfeng Nissan Excellent Supplier Awardを受賞 【鄭州東風李爾泰新汽車座椅有限公司】	ニュースリリースへ
		2022年度 Nissan Supplier Quality Awardを受賞 【鄭州東風李爾泰新汽車座椅有限公司】	ニュースリリースへ
		2021 ホンダサプライヤー賞を4年連続受賞 - Delivery and Quality Award - 【SETEX Automotive Mexico】	ニュースリリースへ
		2022年度 Dongfeng Nissan Supplier Quality Awardを受賞 【襄陽東風李爾泰極愛思汽車座椅有限公司】	ニュースリリースへ
		東風本田取引先NHC大会にて銀賞を受賞 【武漢東風泰極愛思延鋒汽車座椅有限公司】	Appendixへ
技術		INTEGRAへ 新技術「GlueAnchor®」を採用 【SETEX】	HP ESG活動ページへ Appendixへ
ESG		東日本大震災「食べて応援しよう！」の取組みを実施 【タチエス】 【TF-METAL】	ニュースリリースへ
		メキシコにおける太陽光発電システムの稼働開始 【TACHI-S Engineering Latin America, TACHI-S Mexico】	ニュースリリースへ
		タチエスESGレポート2022を公開	ニュースリリースへ
		デトロイト日本商工会基金への寄付 【TACHI-S Engineering U.S.A.】	
		地元サッカーチームへの協賛 （サッカー教室の企画、運営、指導） 【SETEX】	
		地元ガーデンパークへ花の苗植えを実施 【TF-METAL】	Appendixへ
出展		「第67回日本透析医学会学術集会・総会」出展 【タチエスH&P】	ニュースリリースへ
		あきたNEXTモーターショー2022へ出展 【NuiTec Corporation】	ニュースリリースへ
		国際福祉機器展（H.R.C.2022）へ製品展示 【タチエスH&P】	Appendixへ

こちらは22年度上期のトピックスになります。

事業に関する事項、得意先からの様々な受賞、ESG活動等に関するトピックスがありました。

本資料のAPPENDIXやホームページからご覧頂ければ幸いです。

“座る”を追求し人と地球を支える



Global Seat System Creator

本資料についてのご注意

本資料に記載されている将来に関する見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、不確実性やリスクを含んでおります。したがって、実際の結果は様々な要因によって見通しと異なる可能性があります。ご了承ください。

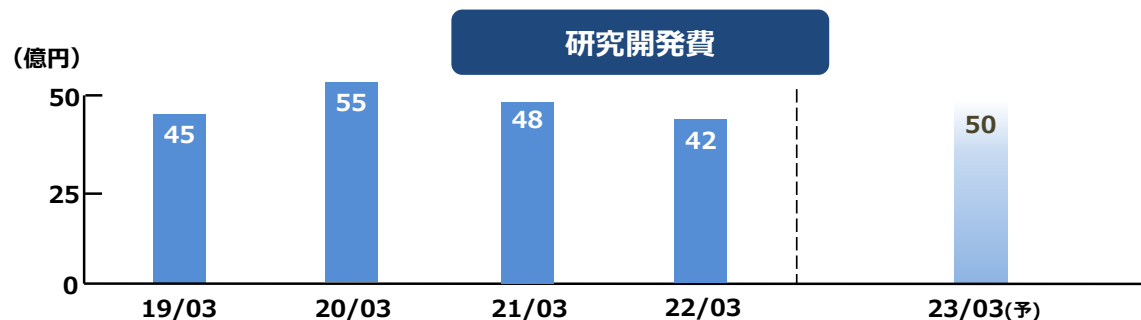
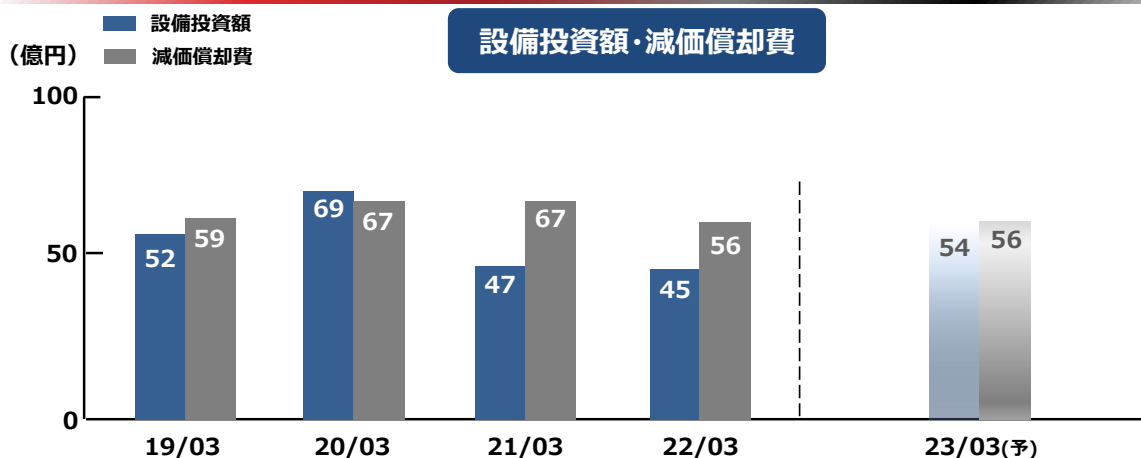
以上で、2023年3月期第二四半期決算、及び中期経営計画進捗の説明を終了いたします。

22年度も様々な事業環境の変化が続いておりますが
当社タチエスは将来の飛躍に向けてコントロール可能な部分については確実に
実行すると同時に変化に対してもスピーディに対応し、企業価値向上に向けて
全社一丸で取り組んでおります。

引き続き、皆様方のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

Appendix



22年度 新規・マイナーモデルチェンジ立ち上げ車種



	2022年										2023年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
Japan		 X-TRAIL		 N-WGN(M)	 N-ONE(M)	 OUTLANDER(M)							
	 FREED(M)	 SKYLINE (M)		 N-ONE(M)				 ZR-V					
	 FREED(M)	 FREED(M)	 FREED(M)	 FREED(M)	 FREED(M)	 FREED(M)	 FREED(M)	 FREED(M)	 FREED(M)	 FREED(M)	 FREED(M)	 FREED(M)	
Mexico	 HR-V			 QX50 (M)	 VERSA(M)	 VERSA(M)			 VERSA(M)				
Americas		 INTEGRA			 MAXIMA(M)				 MAXIMA(M)				
China				 ARIYA	 XR-V				 XR-V				

●NISSAN ●HONDA/ACURA ●MITSUBISHI ●TOYOTA/HINO

(M) : マイナーチェンジ Model Year 35/32



日野自動車 向け
デュトロ Z EV 用シート

- 生産開始
2022年6月
- 生産拠点
青梅工場



メキシコホンダ 向け
HR-V 用シート

- 生産開始
2022年4月
- 生産会社
SETEX Automotive
Mexico



米国ホンダ 向け
INTEGRA 用シート

- 生産開始
2022年5月
- 生産会社
SETEX



**インドにおける
新たな合併事業開始**

Uno Minda TACHI-S Seating Private Limited

雲夢工場の設立・稼働開始

泰極愛思（武漢）汽車内飾有限公司

**東風本田取引先NHC大会にて
銀賞を受賞**

武漢東風泰極愛思延鋒汽車座椅有限公司

**INTEGRAへ 新技術
「GlueAnchor®」を採用**

SETEX

**地元ガーデンパークへ
花の苗植えを実施**

TF-METAL

**国際福祉機器展
(H.R.C.2022)へ製品展示**

タチエスH&P

(単位：円)

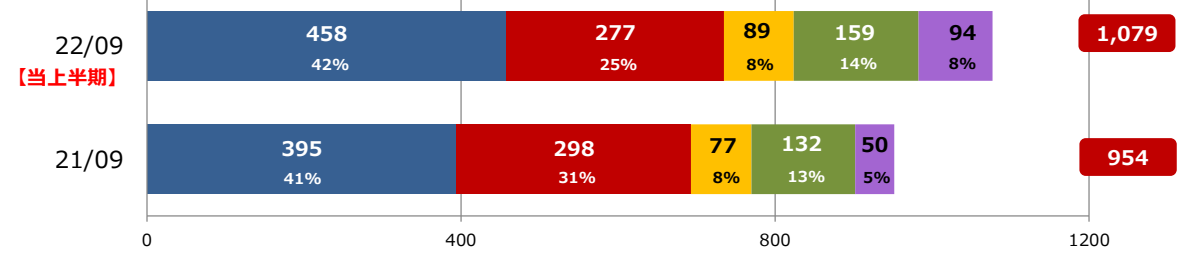
	19/03	20/03	21/03	22/03	23/03(予)
USD	109.18	109.13	105.79	112.06	125.00
MXN	5.73	5.65	5.02	5.38	6.00
EUR	122.00	121.27	123.22	130.54	136.50
RMB	16.31	15.86	15.41	16.94	19.00

売上高の推移 圏別売上高（連結）

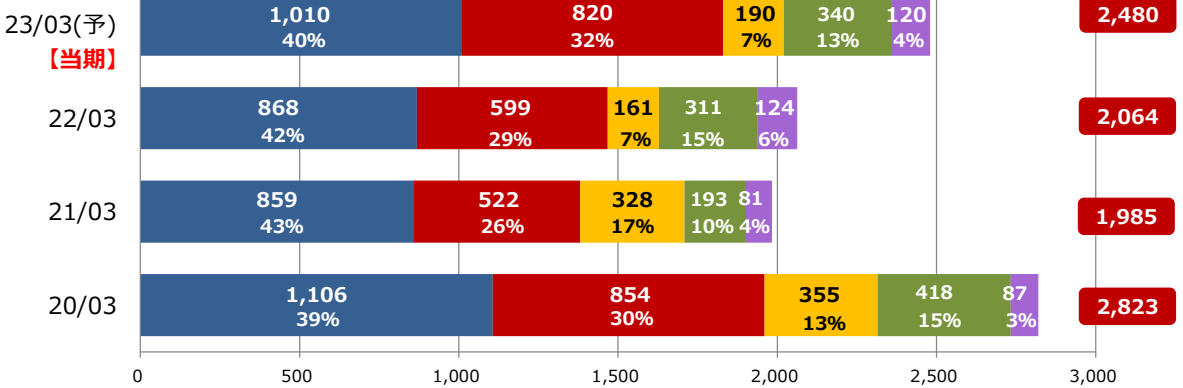
単位：億円
(億円未満切捨て)

上半期推移

■ ホンダ圏 ■ 日産圏 ■ トヨタ圏 ■ 三菱圏 ■ その他



通期推移



39/32

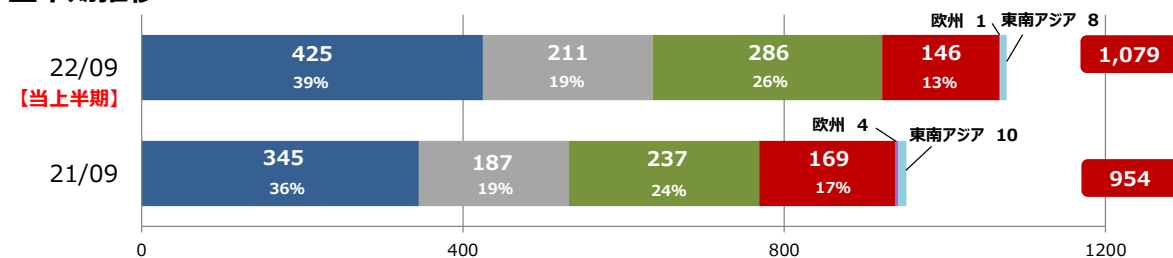
売上高の推移 所在地別売上高（連結）



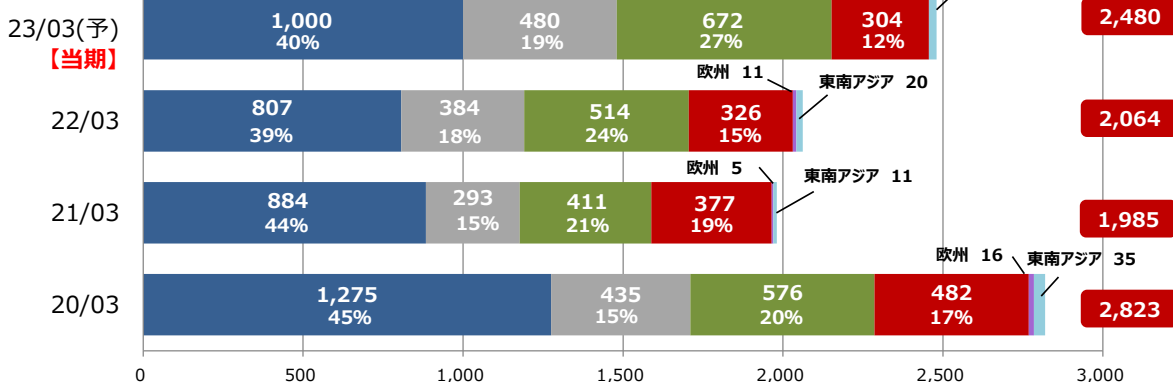
単位：億円
(億円未満切捨て)

上半期推移

■ 日本 ■ 北米 ■ 中南米 ■ 中国 ■ 欧州 ■ 東南アジア



通期推移



利益の推移 所在地別営業利益（連結）



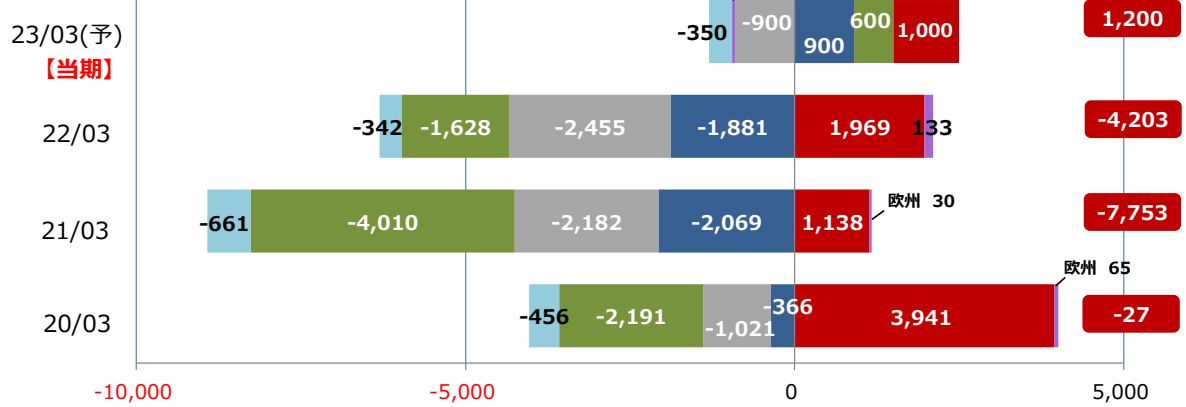
(単位：百万円)

上半期推移

■ 日本 ■ 北米 ■ 中南米 ■ 中国 ■ 欧州 ■ 東南アジア



通期推移



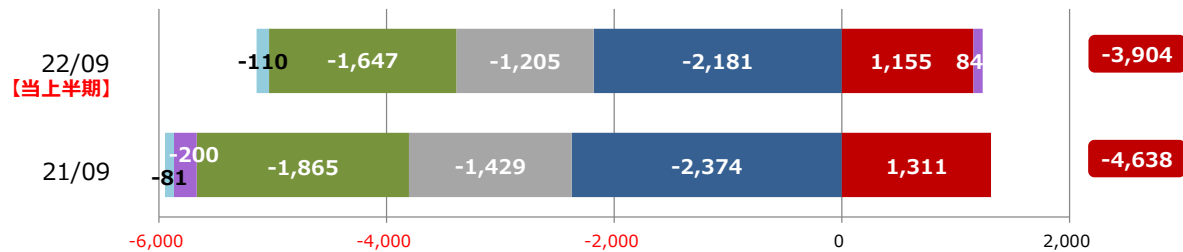
利益の推移 所在地別経常利益（連結）



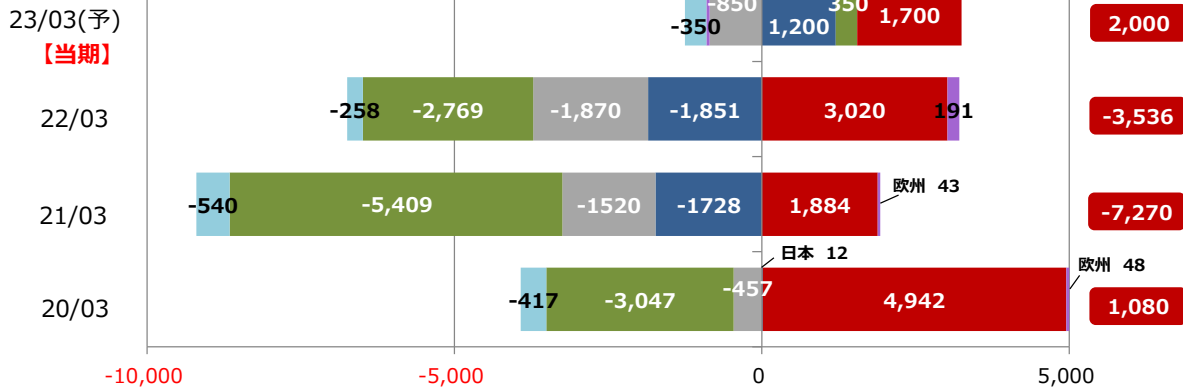
(単位：百万円)

上半期推移

■ 日本 ■ 北米 ■ 中南米 ■ 中国 ■ 欧州 ■ 東南アジア



通期推移



22年9月30日時点

拠点	開設年月	所在地	業務内容	主な納入先
本社	1954年 4月	東京都昭島市	本社機能	
技術・モノづくりセンター	2012年 4月	東京都青梅市	営業・調達・設計・開発・実験・生産・品質等技術全般	
技術センター愛知	1999年 8月	愛知県安城市	営業・調達・設計・開発	
愛知工場	1977年 4月	愛知県安城市	自動車座席・座席部品の製造	トヨタ自動車、三菱自動車、トヨタ紡織
武蔵工場	1980年 1月	埼玉県入間市	自動車座席・座席部品の製造	ホンダ
青梅工場	1969年 4月	東京都青梅市	試作 自動車座席・座席部品の製造	日野自動車、トヨタ紡織
栃木工場	1982年 2月	栃木県下野市	自動車座席・座席部品の製造	日産自動車、日野自動車
平塚工場	1982年 7月	神奈川県平塚市	自動車座席・座席部品の製造	日産車体
鈴鹿工場	1984年10月	三重県鈴鹿市	自動車座席の製造	ホンダ

関係会社一覧（日本）



会社名	設立 年月	所在地	主な事業内容	出資比率	資本金	主な納入先	連結範囲
株式会社TF－METAL	2017年 5月	静岡県 湖西市	自動車座席部品の 開発、製造、販売	100.0%	百万円 50	タチエス、アディエント、 スズキ	連結 子会社
株式会社Nui Tec Corporation	2006年 7月	東京都 青梅市	自動車座席用 縫製部品の製造、販売	100.0%	百万円 325	タチエス トヨタ紡織東北	連結 子会社
株式会社タチエスH&P	1961年 4月	東京都 青梅市	各種バネ・自動車等 座席部品・医療用 ベッドの製造、販売	100.0%	百万円 40	タチエス、 TF－METAL、 自動車関連以外	連結 子会社
錦陵工業株式会社	1976年 2月	福岡県 京都郡	自動車座席・ 座席部品の製造、販売	25.0%	百万円 100	タチエス、アディエント	連結 関連会社
株式会社 TF－METAL磐田	1986年 10月	静岡県 磐田市	自動車座席部品の 製造、販売	(100.0%)	百万円 15	TF－METAL、 日本発条	連結 子会社
株式会社 TF－METAL九州	1985年 7月	大分県 中津市	自動車座席部品の 製造、販売	(100.0%)	百万円 10	TF－METAL、 富士機工	連結 子会社
株式会社 TF－METAL東三河	1986年 10月	愛知県 新城市	自動車座席部品の 製造	(100.0%)	百万円 10	TF－METAL	連結 子会社

※ 非連結子会社： タチエスサービス株式会社

連結子会社 6 社 連結関連会社 1 社 非連結子会社 1 社

関係会社一覧（北米）



会社名	設立 年月	所在地	主な事業内容	出資比率	資本金	主な納入先	連結範囲
TACHI-S Engineering U.S.A., Inc.	1986年 7月	米国 ミシガン州	北米における 営業、開発業務及び 統括管理	100.0%	百万USD 43		連結 子会社
TF-METAL Americas Corporation	2000年 7月	米国 ミシガン州	米州における 統括管理、開発	(100.0%)	百万USD 0		連結 子会社
SETEX, Inc.	1987年 9月	米国 オハイオ州	自動車座席の 製造、販売	(51.0%)	百万USD 5	米国ホンダ	連結 子会社
TACHI-S Automotive Seating U.S.A., LLC	2005年 12月	米国 テネシー州	自動車座席の 製造、販売	(100.0%)	百万USD 22	北米日産	連結 子会社
TechnoTrim, Inc.	1986年 11月	米国 ミシガン州	自動車座席用 縫製部品の製造、販売	(49.0%)	百万USD 0	北米主要 シートメーカー	連結 関連会社
TF-METAL U.S.A., LLC	2004年 3月	米国 ケンタッキー州	自動車座席部品の 製造、販売	(100.0%)	百万USD 10	TAS-U.S.A.、 TSM、 アディエント	連結 子会社
TACHI-S Canada, Ltd.	2004年 9月	カナダ ノバスコシア州	カナダにおける統括管理	(100.0%)	百万CAD 12		連結 子会社

（ ）は間接所有を含む

連結子会社 6 社 連結関連会社 1 社

関係会社一覧（中南米・欧州）

会社名	設立 年月	所在地	主な事業内容	出資比率	資本金	主な納入先	連結範囲
TACHI-S Engineering Latin America, S.A. de C.V.	2012年 5月	メキシコ アグアス カリエンテス州	中南米における 開発業務	(100.0%)	百万MXN 2,184		連結 子会社
Industria de Asiento Superior, S.A. de C.V. (TACHI-S Mexico)	1991年 4月	メキシコ アグアス カリエンテス州	自動車座席・座席 部品の製造、販売 及び中南米事業 統括管理	(100.0%)	百万USD 26	メキシコ日産	連結 子会社
SETEX Automotive Mexico, S.A. de C.V.	2012年 9月	メキシコ グアナフアト州	自動車座席の 製造、販売	(95.0%)	百万USD 24	メキシコホンダ	連結 子会社
TF-METAL Mexico, S.A. de C.V.	2012年 6月	メキシコ アグアス カリエンテス州	自動車座席部品の 製造、販売	(100.0%)	百万USD 27	TSM、 TF-METAL U.S.A. フォーレシア	連結 子会社
TACHI-S Brasil Industria de Assentos Automotivos Ltda.	2012年 8月	ブラジル リオデジャネイロ 州	自動車座席の 製造、販売	(100.0%)	百万BRL 275	ブラジル日産 ルノーブラジル	連結 子会社
TACHI-S Engineering Europe S.A.R.L.	2004年 10月	フランス ムードン・ラ・ フォレ市	欧州における営業、 開発業務及び 自動車座席部品の 製造、販売	100.0%	百万 EUR 23	アディエント	連結 子会社

連結子会社
6
社

() は間接所有を含む

46/32

関係会社一覧（中国-1）



会社名	設立 年月	所在地	主な事業内容	出資比率	資本金	主な納入先	連結範囲
泰極愛思（中国） 投資有限公司	2011年 10月	中国 広東省	中国における 営業、開発業務及び 統括管理	100.0%	百万RMB 259		連結 子会社
泰極愛思（鄭州）汽車 座椅研究有限公司	2015年 12月	中国 河南省	中国における開発業務	(100.0%)	百万RMB 75		持分法適 用の非連 結子会社
広州泰李汽車座椅 有限公司	2004年 11月	中国 広東省	自動車座席の 製造、販売	51.0%	百万RMB 66	東風日産	連結 子会社
湖南泰極愛思汽車座椅 有限公司	2012年 7月	中国 湖南省	自動車座席の 製造、販売	(51.0%)	百万RMB 40	广汽三菱汽車	連結 子会社
襄陽東風李爾泰極愛思 汽車座椅有限公司	2013年 7月	中国 湖北省	自動車座席の 製造、販売	(51.0%)	百万RMB 30	東風日産	連結 子会社
鄭州泰新汽車内飾件 有限公司	2001年 7月	中国 河南省	自動車座席の 製造、販売	50.0%	百万RMB 11	鄭州日産 奇瑞汽車	連結 関連会社
武漢東風泰極愛思延鋒 汽車座椅有限公司	2008年 6月	中国 湖北省	自動車座席の 製造、販売	50.0%	百万RMB 43	東風本田	連結 子会社
大連東風李爾泰極愛思 汽車座椅有限公司	2013年 8月	中国 遼寧省	自動車座席の 製造、販売	(49.0%)	百万RMB 50	東風日産	連結 関連会社
鄭州泰之新 汽車座椅有限公司	2019年 6月	中国 河南省	自動車座席、座席 部品の製造、販売	(49.0%)	百万RMB 90		非連結 関連会社

（ ）は間接所有を含む

連結子会社 5社 連結関連会社 2社 持分法適用の非連結子会社 1社 非連結関連会社 1社

関係会社一覧（中国-2）



会社名	設立 年月	所在地	主な事業内容	出資比率	資本金	主な納入先	連結範囲
武漢東実李爾泰極愛思 汽車座椅有限公司	2019年 11月	中国 湖北省	自動車座席の 製造、販売	(34.0%)	百万RMB 50	東風日産	非連結 関連会社
泰極（広州）汽車内飾 有限公司	2005年 9月	中国 広東省	自動車座席用 縫製部品の製造、販売	100.0%	百万RMB 38	タチエス 広州泰李	連結 子会社
泰極愛思（武漢）汽車 内飾有限公司	2013年 10月	中国 湖北省	自動車座席用 縫製部品の製造、販売	(100.0%)	百万RMB 35	武漢東泰延、 襄陽東風李爾	連結 子会社
浙江泰極愛思汽車部件 有限公司 ※	2012年 1月	中国 浙江省	自動車座席用 フレーム部品の 製造、販売	(82.8%)	百万RMB 142		連結 子会社
広州泰昌汽車部件 有限公司	2005年 1月	中国 広東省	自動車座席部品の 製造、販売	(85.0%)	百万RMB 40	広州泰李	連結 子会社
浙江泰極信 汽車部件有限公司	2019年 12月	中国 浙江省	自動車座席部品の 製造、販売	(82.8%)	百万RMB 251	タチエス	連結 子会社
浙江富昌泰汽車零部件 有限公司 ※	2011年 3月	中国 浙江省	自動車座席部品の 製造、販売	(82.8%)	百万RMB 109		連結 子会社

（ ）は間接所有を含む

※ 浙江泰極愛思汽車部件有限公司と浙江富昌泰汽車零部件有限公司は2022年10月に会社清算手続きが完了

連結子会社 6 社 非連結関連会社 1 社

会社名	設立 年月	所在地	主な事業内容	出資比率	資本金	主な納入先	連結範囲
TACHI-S（Thailand） Co., Ltd.	2011年 9月	タイ バンコク都	東南アジア、インドに おける統括管理	100.0%	百万THB 771		連結 子会社
TACHI-S Automotive Seating（Thailand） Co., Ltd.	2010年 4月	タイ バンコク都	自動車座席・座席 部品の製造、販売	100.0%	百万THB 153	タイ日産 タイ三菱	連結 子会社
TACHI-S Engineering Vietnam Co., Ltd.	2013年 1月	ベトナム ホーチミン市	ベトナムにおける 開発業務	100.0%	百万VND 31,026		非連結 子会社
APM TACHI-S Seating Systems Vietnam Co., Ltd.	2016年 11月	ベトナム ダナン市	自動車座席の 製造、販売	(51.0%)	百万VND 56,567		非連結 子会社
APM TACHI-S Seating Systems Sdn. Bhd.	2013年 2月	マレーシア スランゴール州	自動車座席の 製造、販売	(49.0%)	百万MYR 5		非連結 関連会社

（ ）は間接所有を含む

連結子会社 2 社 非連結子会社 2 社 非連結関連会社 1 社